

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	184	事業名	国際理解推進事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	多くの区民が外国と触れ合う機会や経験を持つ今日、区民が国際理解を深め、国際社会の一員として、世界に目を向け、外国人を受け入れる意識を共有をしていきます。		
手段	区内の大学等で多くの留学生や外国人研究者が学んでいる特性を踏まえ、大学、事業者、国際交流団体等と連絡し、様々なテーマによる国際理解を進める講座を開催します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
国際理解推進講座	回	1	1	1	100%	1			1

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	170	172	142	172		
特定財源	76	60	35	60		
一般財源	94	112	107	112		
所要人員 B	0.25	0.25	0.25	0.25		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	1,717	1,704	1,692	1,736		
総経費 E=A+D	1,887	1,876	1,834	1,908		

4 評価						
事業の成果及び課題						
26年度		27年度		28年度		
【成果】	「ドイツ」をテーマとして、クリスマスの時期の料理、ライフスタイルなどの生活文化面について、講義、実習を通して、ドイツの文化について理解を深める講座を実施しました。文京区はドイツのカイザースラウテルン市と姉妹都市提携を結んでおり、25周年の記念の年でもあったので、その機運を盛り上げ、姉妹都市を知るきっかけにすることもできました。	【成果】	昨年から交流の始まった「イスタンブール市ベイオウル区」を切り口に、ユネスコ世界無形文化遺産でもあるトルココーヒーを通じて、トルコとイスラムの文化に理解を深める講座を実施しました。コーヒーと言う身近な飲み物からの興味と、トルコと言う国に対する興味の両面から参加者が集まり盛況な講座となりました。また、会場にトルコ大使館文化部をお借りし、日本最大級のモスクである東京ジャーミーの見学も含めたため、参加者から大変好評でした。	【成果】		
【課題】	講師の人気もあってか、たくさんの受講申し込みがあり、出席率も高かったです。しかし、せっかくの周年時期であったので、ドイツを切り口として、さらに姉妹都市交流に結び付ける仕組みづくりにつなげられるよう、一工夫に課題が残りました。	【課題】	海外都市との交流事業(事業番号188)等と連動した講座を開催していくことで、双方の事業に相乗効果が図れると考えられます。しかし、アンケートの結果、姉妹都市カイザースラウテルン市の認知度と比べ、文京区とイスタンブール市ベイオウル区との友好交流については、認知度が低く、様々な機会を捉えて、周知を図っていく必要があります。	【課題】		
指標達成度		26年度	27年度	28年度		
		A	A			

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①アンケート結果から、トルコの別の側面への講座、姉妹都市であるドイツの講座の外、文化的・教養を高められるような講座への期待が高くありました。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 区の交流をキーにして、ドイツやトルコ、UN-Women関連での展開を検討します。
		② 当初予算の増減内訳
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 1人×10%+0.5人×30%=0.25人
		④ 現状維持の理由 国際理解の推進のためには、さまざまな手法が考えられます。テーマに沿ったやり方等を工夫、見直しつつ、さらに効果が上がるよう進めます。
28年6月末		

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	185	事業名	山村体験交流事業協力
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画			
所管	区民部	区民課	
目的	充実した山村体験交流事業が実施できるよう協力することにより、区民が自然とのふれあいや魚沼市民との交流を楽しめる場を確保し、自主的交流への発展及び山村体験宿泊施設の活用を図ります。		
手段	山村体験宿泊施設の運営事業者が実施する、区民を対象とした田植え・稲刈り・川遊び・雪遊び等の山村体験交流事業を26年度は16種計20回実施し、区はそれらの事業に協賛しました。それを踏まえ、事業を広く周知するためのチラシやポスターの作成、区報やツイッター及びフェイスブックなどに情報を掲載し、ホームページに利用者の声を掲載するなど、様々なメディアを使って積極的にPRしていきます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
事業参加率	%	—	54	79	146%	57			60
事業実施回数	回	20	—			—			—
事業参加者数	人	415	—			—			—

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	736	791	754	813		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	736	791	754	813		
所要人員 B	0.20	0.20	0.20	0.24		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	1,374	1,363	1,353	1,667		
総経費 E=A+D	2,110	2,154	2,107	2,480		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	<p>申込者数が参加定員を上回った事業は9回ありました。</p> <p>参加された区民からは、事業の内容については喜ばれているので、そういった声をHPに掲載し、ツイッターやフェイスブックでのPRも行いました。</p> <p>また、現地スタッフは事前の準備をしっかりと行い、事故の無いよう安全に事業が行われるように取り組みました。</p>	【成果】	<p>26年度も、20回中9回で参加者が募集人員を上回りました。</p> <p>参加するまでは体力などに少し不安があった方でも、参加してみるととても楽しかったという声や、気持ち良い満足感が得られたのでまた参加したいという意見も寄せられ、現地スタッフの思いやりのある接遇が、参加者の満足度の高さにつながっています。</p> <p>利用して下さる方々のアンケートも、ご満足いただいている声が大変多く、リピーターも増えています。また、各イベントの内容や時期等を考慮し、事業毎にリピーター増加につながる様々な工夫をしています。</p>
【課題】	<p>申込者が少ない事業については見直しを行い、老若男女が自然と触れ合うことのできる事業を新たに企画していく必要があります。</p> <p>また、平日の宿泊者をターゲットとした事業などの企画も計画していく必要がある。</p>	【課題】	<p>申し込みが少なくキャンセルになった事業は26年度は1事業だけでした。</p> <p>これを受け、以前からの課題である平日の事業を増やします。</p> <p>毎回申し込みの多い事業は継続し、長岡の花火見学や山古志の牛の角突きなど、魅力のあるコンテンツをそろえて平日の宿泊者増を目指します。</p> <p>また、中越地震で被害を受けた山古志へのツアーなど、被災地復興も視野に入れていきます。</p>
指標達成度		26年度	27年度
		B	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	「初めての田植えで、腰が辛いかと思いましたが、終わった後はすっきりした気持ちになりました」「カヌーなど、東京近郊ではできないことが体験できるので、たいへん楽しかったです」「他のツアー企画にないものがある」「自然の素晴らしさを五感から感じさせていただきました」（平成26年度参加者アンケートより）

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	区民に、田植えや稲刈り・川遊びなどの山村体験の場と、魚沼市民との交流の機会を提供していきます。
		② 当初予算の増減内訳
27年6月末	現状維持	消耗品実績による需用費の増 22千円
		③ 所要人員の考え方
28年6月末	現状維持	$12 / 12月 \times 3人 \times 8\% = 0.24人$
		④ 現状維持の理由
		都心では得られない自然豊かな山村地域での様々な体験やふれあいの場を設けることで、区民の健康と福祉の増進を図る必要があるため

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	186	事業名	協定締結都市等との文化交流事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		国内外の交流
個別計画			
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	協定を締結している自治体と協働し、平時における市民レベルの文化交流の活性化を図るとともに、相互の地域振興を図ります。		
手段	各自治体の文化や特色ある伝統芸能の紹介のほか、幅広い交流により、自治体間における市民レベルの文化的交流の活性化と、パートナーシップの領域を拡大します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
事業実施回数	回	-	2	3	150%	2			2

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A		714	324	714		
特定財源		0	0	0		
一般財源		714	324	714		
所要人員 B		0.60	0.40	0.40		
職員1人給与 C		6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C		4,088	2,706	2,778		
総経費 E=A+D		4,802	3,030	3,492		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度	27年度	28年度	
【成果】	【成果】 岩手県盛岡市及び島根県津和野町と、それぞれ協定に基づいた文化関連事業を実施しました。 盛岡市とは、石川啄木に関する講演会「啄木学級」を開催し、津和野町とその周辺地域の自治体とは、地元で受け継がれている石見神楽の公演（2回）を開催しました。 会場では特産品の販売や観光情報の紹介もあり、各地域の文化に幅広く触れる機会を提供したことで、事業を通して新たな文化交流が育まれました。	【成果】	
【課題】	【課題】 盛岡市及び津和野町とその周辺地域の自治体との交流事業を継続的に実施していくことで、事業の定着と展開を図る必要があります。 また、上記以外の協定締結自治体との協働も視野に、交流を広げていく必要があります。	【課題】	
指標達成度		26年度	27年度
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①「故郷の伝統芸能を東京（文京区）で観ることができるのは、大変貴重な機会である」「抽選になると参加できない場合があるので、実施回数及び機会を増やしてほしい」（参加者より）
②区民は主に鑑賞者として参加しますが、会場にて地元の方々と交流する機会もあり、他自治体の文化を五感で幅広く体験・学習しています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 文京区において、各自治体の文化と魅力に触れられる機会を設け、文化交流を通じて相互間の地域活性化を推進します。
		② 当初予算の増減内訳 増減なし
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員1人×0.2×2回=0.4人
		④ 現状維持の理由 各自治体間における質の高い文化交流の活性化に、大きな効果があるため。
28年6月末		

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	187	事業名	国内交流の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画			
所 管	区民部	区民課	
目的	区民が国内の人々と交流を深める機会を提供することにより、文京区が持つ、歴史、文化、観光、経済等、様々な魅力を内外に発信するとともに、交流自治体相互の魅力を高め合うことを目指します。		
手段	本区ゆかりの文人や歴史的なつながり等を検証し、各種協定を結ぶなど、友好関係にある自治体と物産展での出店や相互訪問、文化交流等、様々な事業や施策の展開を実施します。また、友好関係にある自治体とは、より一層相互PRに努めるとともに、個人や団体の相互訪問、文化事業交流等、これまで以上に自治体相互交流の機会を深めます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
ホームページの国内交流ページへの年間アクセス数	件	—	456	1,060	232%	500			550

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	12	355	244	355		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	12	355	244	355		
所要人員 B	0.04	0.06	0.06	0.30		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	275	409	406	2,083		
総経費 E=A+D	287	764	650	2,438		

4 評価						
事業の成果及び課題						
26年度		27年度		28年度		
【成果】		【成果】		【成果】		
①区内において区の友好交流に関する今後の方針等の意思統一を図ることができました。 ②石岡市への視察後、区登録消費者団体や町連婦人部などの同市への見学や、同市の統計調査員の区への視察・研修など、交流関係が広がっています。 ③国内友好交流に関するホームページを作成し、友好関係にある自治体のPRを行いました。		①津和野町・甲州市を訪問し、協定に係る相互協力などについて協議を行いました。 ②石岡市主催の区民向けツアーを区報・ホームページで周知した結果、定員45人のところ375人の応募がありました。 ③ホームページの見直しを図り、日本地図上に交流自治体の位置を示すなど、視覚的に馴染みやすい構成となるよう工夫しました。また、注目情報のページを作成し、各自治体のトピックスをPRしました。 ④各課の他自治体との交流状況を調査し、結果を一覧表にまとめることで区全体の現状を把握しました。				
【課題】		【課題】		【課題】		
①住民レベルの交流を促進するため、相互に訪問した際にメリットを感じられるような取組を検討していく必要があります。 ②ホームページのレイアウト等をより見やすくするほか、自治体の情報提供についても積極的に進めていく必要があります。		①各課の交流状況一覧表を基に、区として新たな自治体との交流・連携のあり方について整理する必要があります。 ②地域住民生活等緊急支援交付金の活用については、特別区全国連携プロジェクトへの対応も加味した上で、交付金の目的に即した具体的なかつ効果的な事業を実施する必要があります。				
指標達成度				26年度	27年度	28年度
					A	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①文京区と石岡市の繋がりを知って、親近感がわきました。（石岡市主催バスツアー参加者） シビックセンター内で物産展を定期的に開催してほしいです。（石岡市主催バスツアー参加者）	

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	拡充	① 事業の展開内容 地域住民生活等緊急支援交付金に係る事業について関係課と調整を行い、具体的な実施に向けて進めていきます。 ② 当初予算の増減内訳
27年6月末	改善・見直し	③ 所要人員の考え方 $(1人 \times 0.2) + (1人 \times 0.05) + (1人 \times 0.05) = 0.3人$
28年6月末		④ 現状維持の理由

平成27年度 事務事業評価表【B様式】

1 事業の概要			
事業番号	188	事業名	海外都市との交流事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画			
所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	姉妹都市カイザースラウテルン市をはじめ、海外都市とのさまざまな交流を通して幅広く交流し、区民の友好、相互理解を深めます。		
手段	姉妹都市カイザースラウテルン市とホームステイ生徒交換事業を中心とした各種交流事業の外に、他の海外都市とも機会をとらえて訪問団の派遣や受入を行い、交流を進めていきます。		

2 取組状況	
25年度	6月：北京市昌平区訪問団受入(5人) 7月：カイザースラウテルン市へホームステイ生徒派遣(4人) 9月：イスタンブール市ベイオウル区訪問団受入れ(2人) 10月：カイザースラウテルン市へ公式訪問団派遣 6日間(区長、職員、副議長、議員、区民計12人) 1月：北京市昌平区、新区長就任にお祝い文送付
26年度	4月：イスタンブール市ベイオウル区へ公式訪問団派遣 6日間(区長、職員×2) 6月：ソウル市松坡区、区長再選にお祝い文送付 7月：カイザースラウテルン市長にFIFAワールドカップドイツ優勝にお祝い文送付 7月：カイザースラウテルン市からホームステイ生徒受入(4人) 10月：ベルリン・フンボルト大学森鷗外記念館30周年記念式典への参加 6日間(区長、職員) 10月：イスタンブール市ベイオウル区訪問団受入(13人) 12月：カイザースラウテルン市、市長再選にお祝い文送付 (2月：イスタンブール市ベイオウル区へJICA草の根技術協力として防災対策事業で職員派遣)
27年度	

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	5,961	7,934	5,815	9,287		
特定財源	4,400	0	0	400		
一般財源	1,561	7,934	5,815	8,887		
所要人員 B	0.60	0.60	0.60	0.60		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	4,121	4,088	4,060	4,166		
総経費 E=A+D	10,082	12,022	9,875	13,453		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	姉妹都市提携25周年を迎えたカイザースラウテルン市との交流では、文京区から区民訪問団の派遣を行った。一方、ホームステイ生徒の交換事業では、事業の見直しを行ったことにより、希望する生徒が増加するなど課題であった事柄に成果を残しました。その他の海外都市との交流では、北京市昌平区からの訪問団の外、トルコ、イスタンブール市ベイオウル区からも訪問団があり、今後の交流に向けたきっかけが作れました。	【成果】	昨年度からのイスタンブール市ベイオウル区との交流では、双方の首長がお互いを訪問し、友好交流の覚書に署名するなど、大きな成果につながりました。今後は、国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業も活用し、ますますの交流進展が期待できます。カイザースラウテルン市やソウル市松坡区との交流についても、平成27年度を前に前向きな動きが見られ、今後交流が活発化しそうです。
【課題】	姉妹都市カイザースラウテルン市とは、交流協定の見直しの検討をするなどしながら、交流を促進していく必要があります。北京市昌平区とは、交流実績を増やしていく必要があります。ソウル市松坡区との交流は、先方の人事異動等以降、スムーズに進まなくなっています。今後の連絡のあり方など展開には課題があります。一方、イスタンブール市ベイオウル区からは、訪問団派遣の要請がありました。今後の交流促進に向けて検討を行います。	【課題】	姉妹都市カイザースラウテルン市とは、平成27年度の交流事業の中で交流協定の見直しを行う必要があります。北京市昌平区やソウル特別市松坡区とは引き続き交流実績を増やすことに努めます。一方、イスタンブール市ベイオウル区とは、始まった交流を議会や区民に広げていくことが課題となります。
達成度		26年度	27年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①アカデミー推進計画に関する実態調査において、海外都市等との交流についての設問で、『地域を問わず多くの都市と交流を深める』が最も多い結果となりました。	
②姉妹都市とのホームステイ交換事業に、文京区民4ファミリーが参加し、姉妹都市からの子ども達4人を受入れました。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	拡充	交流相手先の要望も踏まえ、事業の展開内容を適切にアレンジして、有意義な交流事業となるよう努めていきます。
		② 当初予算の増減内訳
		交流都市の増加に伴って、必要な経費の拡充が考えられます。
		③ 所要人員の考え方
		1人×50%+0.5人×20%=0.6人
		④ 現状維持の理由
28年6月末	拡充	

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	189	事業名	外国人参加型交流事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	国内外の垣根を越えて、交流の輪を育むことで、たくさんの人たちとふれあい、多種多様な文化や考え方を尊重し、相互理解を深めていきます。		
手段	外国人や留学生が、地域行事やボランティアなど、区内で実施されるさまざまな事業に参加できる機会を提供し、区民・外国人の交流と相互理解を進める事業を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
地域活動連携事業	回	3	3	3	100%	3			3
国際交流フェスタ	回	1	1	1	100%	1			1
英語観光ボランティア	回	2	1	2	200%	1			1

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	1,836	2,390	1,971	2,258		
特定財源	0	200	250	0		
一般財源	1,836	2,190	1,721	2,258		
所要人員 B	0.65	0.65	0.65	0.65		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	4,464	4,429	4,398	4,514		
総経費 E=A+D	6,300	6,819	6,369	6,772		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	地域活動連携事業では、始めて英語落語の会を実施したほか、昨年に引き続き子ども向け行事と留学生との国際交流など文京区らしい事業を実施しました。国際交流フェスタでは、新たな団体の参加もあり盛況な内容となりました。英語観光ボランティアによるガイドツアーは、2回実施しました。その他、ボランティア主催のツアーも複数実施されました。インターネット申し込みも運用が始まっています。	【成果】	地域活動連携事業では、引き続き子ども向け事業を行ったことに加えて、区内の能楽堂の協力を得て外国人の能舞台鑑賞とバックヤードツアーを実施しました。国際交流フェスタでは、初めて小学校の参加やオリンピック・パラリンピックに関するブースを設けるなどし、大変盛況で、外国人の入場者数も伸びました。英語観光ボランティアによるガイドツアーを2回実施したほか、新たなボランティアの育成を行いました。
【課題】	国際交流フェスタは、アカデミー推進部に係る横断的なイベントとして実施できないか検討します。ボランティア主催の英語ガイドツアーのインターネット申し込みを始めましたが、Webサイトのアクセシビリティ向上やコンテンツを充実させるなど、集客に結び付ける工夫が課題です。2020年オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、国際理解の推進を更に進めていく必要があります。	【課題】	地域活動連携事業では連携先を広く求め、新しいフィールドの開拓を検討していきます。国際交流フェスタは次回で10回目となるので、今後の展開を検討していきます。英語観光ボランティアの活動は、新たに育成したメンバーの力を得て、ボランティアとしての自立を支援することが課題です。
指標達成度		26年度	27年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①東日本大震災の影響で一時的に減少した外国人住民数は、約8,000人へと増加しています。	
②国際交流フェスタは、区民を主体とした実行委員会を組織して、実施しています。英語観光ボランティアのガイドツアーには、育成講座を修了した区民の方にご協力をいただいております。今回第4期生の育成を行いました。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	
26年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 地域の団体、大学、ボランティア等と連携を密にしながら各事業を展開します。
		② 当初予算の増減内訳 英語観光ボランティア育成講座分の減
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 $1人 \times 40\% + 0.5人 \times 50\% = 0.65人$
		④ 現状維持の理由 連携する団体等は多岐にわたるため、内容等を調査し、さらに連携を取りながら事業を実施します。
28年6月末		